

教材研究支援システムについて

福井県教育研究所

このシステムのねらいは

A：教員一人ひとりが授業に活用してきた教材・教具等を共有することで、多忙化している県内教員の授業準備や教材研究の負担軽減を図ることを目的としています。

どのような効果を期待しているか

A：多忙化を軽減することによって、教員一人ひとりが子どもと直接かかわる時間が確保できます。子どもたちに向き合う時間が増えることによって、日々の授業や課外活動、学校行事などの教育活動の中で、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、その個性や能力を最大限に伸ばしていくことを期待しています。また、他の教員の優れた学習指導案を研究することによって、より分かりやすい、効果的な授業をすすめることができるようになります。特に若い教員の学習指導力が大きく向上していくものと考えています。

教材の具体的な内容は

- A：①教材・教具（小・中・高・特別支援学校の授業で利用できるプリント類等）
基礎的事項のドリル教材（漢字、計算など各教科の基礎・基本的内容を繰り返し学習するためのプリント等の教材）
ワークシート（例：読解力を育てる授業展開が可能なワークシート）
歴史年号カルタ（年号を覚えやすく工夫したカルタ）
教員用実験シート（理科の実験に必要な器具やその使い方、授業のすすめ方が一目で分かるよう工夫された1枚ものの紙）
図版素材（教員が自作プリントを作成する際に役立つ図版等：理科）
高等学校（入試数学バイブル問題集・大学入試センター試験過去問良問集など）
白川文字学（副読本指導事例集・漢字学習副読本等）
ふくいについて学ぶ（ふくいデジタルコンテンツ・福井県教育デジタルコンテンツ）
- ②学習指導案（県内の小・中・高・特別支援学校から集まった優れた教育実践の指導案）
- ③指導資料（GOOD授業ナビ、ICT活用資料、小・中学校の指導要録記入の手引き）
- ④授業名人の指導案（平成19年度から授業名人に選ばれた方の指導案）
- ⑤NIE・学力調査・学力向上（NIEの実践校の事例、福井県学力調査の報告、リトライプリントなど、高等学校の数学や理科のセンター試験等の問題、）
- ⑥ふくい理数グランプリの過去問題
- ⑦教員研修資料（情報モラル・情報セキュリティ）

教材の作成者は

A：県内の教員、教育庁の指導主事、教育研究所の所員です。

だれが利用できるのか

A：IDとパスワードを使って本システムにアクセスすることで、県内の小・中・高・特別支援学校の全ての教員が利用できます。

一般に公開しない理由は

A：・営利目的の使用を避けるためです。
・教員が適切な時期にまとめや復習、あるいは家庭での学習課題などで利用することを想定しています。

データを自由に取り出して加工してもよいか

A：PDF形式で掲載してあるものは加工できませんが、一太郎やWORDなど、ワープロソフトで作成してあるものは、自分の授業のすすめ方や子どもの実態に合わせて自由に加工することができます。

今後、どのようにしていく予定か

A：教育研究所自体でも教材等を作成しますが、県内からも広く教材等を提供してもらい、量的にも一層充実させていきたいと思っています。

利用法は

A：教員が学校や自宅で、教育研究所ホームページに接続し、そこからシステムに入り利用します。

授業の中での活用法は

A：ドリルやプリントは、児童・生徒の学習のまとめや復習に利用します。また、教員の教材作成の参考資料として学習指導案やワークシートを利用します。前学年までの復習をしたり、上級学年の内容を発展的に学習したりすることにも活用できます。

個人情報は大丈夫か

A：指導案に学校名や授業者の氏名は載せていません。また、児童・生徒に関する記述は原則として削除しています。そのため個人情報が漏洩することは考えにくいと思います。

年間教材ガイドマップとは

A：年間教材ガイドマップとは、福井県独自に作成した教材を、各教科のどの単元で活用するのかを具体的に示した当研究所独自のものです。赤枠の□で囲んだものがドリル教材等を、㊦が学習指導案を示します。

どんなシステムで作られているのか

A：教材研究支援システムは国立情報学研究所で開発された NetCommons で構築しています。